MITSUBISHI Mr.SLIM

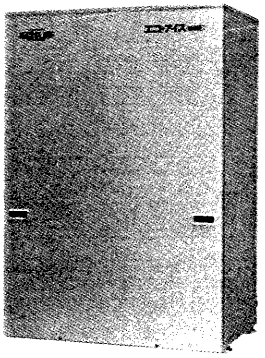
販売店・工事店さま用

蓄熱ユニット 据付工事説明書

三菱電機小型氷蓄熱式パッケージエアコン

エコ・アイス mini

インバーターICEスリム



単相 200V	ST-3.5A

● この製品の性能・機能を充分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい据付工事が必要です。
据付けの前に、室内,室外ユニット付属の説明書と併せて、本説明書を必ずお読みください。

〔もくじ〕 〔ページ〕

※安全のために必ず守ること …… 2 3
1. 蓄熱ユニットの設置 …… 4 5
2. 冷媒配管 …… 6 7
3. 電気配線 …… 8 9 10
4. 蓄熱槽への注水 …… 11

安全のために必ず守ること

●据付工事は、この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ、確実に行なってください。
●ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

⚠警告	誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの。
⚠注意	誤った取扱いをしたときに、傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの。

●据付工事完了後、試運転を行ない異常がないことを確認すると共に、取扱説明書にそって、お客様に「安全のために必ず守ること」や使用方法、お手入れの仕方等を説明してください。
また、この据付工事説明書は取扱説明書と共に、お客様で保管いただくように依頼してください。
また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方にお渡しいただくよう依頼してください。

⚠警告

据付けは、販売店または専門業者に依頼する。
●お客様自身で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。

据付工事は、この据付工事説明書に従って確実に行なう。
●据付けに不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。

台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行なう。
●据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。

据付けは、質量に充分に耐えるところに確実に行なう。
●強度が不足している場合は、ユニットの落下などにより、事故の原因になります。

小部屋に据付ける場合は万一冷媒が洩れても限界濃度を超えない対策を行なう。
●限界濃度を超えない対策については、販売店にご相談ください。
万一、冷媒が洩れて限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。

作業中に冷媒が洩れた場合は、換気する。
●冷媒が火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。

電気工事は電気工事士の資格がある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及びこの据付工事説明書に従って施工し、必ず専用回路とし、かつ定格の電圧・ブレーカーを使用する。
●電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災等の原因になります。

配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
●接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

室内外・蓄熱ユニットの端子盤カバー（パネル）を確実に取付ける。
●端子盤カバー（パネル）取付けに不備があると、ほこり・水等により、感電、火災等の原因になります。

据付けや移設の場合は、冷媒サイクル内に指定冷媒（R-22）以外のものを混入させない。
●空気などが混入すると、冷媒サイクル内が異常高圧になり、破裂などの原因になります。

加湿器、高性能フィルターなど別売品は、必ず当社指定の部品を使用する。
●取付けは専門の業者に依頼してください。ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。

改造は絶対にしない。
●修理は、お買い上げの販売店にご相談ください。
改造したり修理に不備があると水漏れや感電、火災等の原因になります。

お客様自身で移動・再据付けはしない。
●据付けに不備があると水漏れや感電、火災等の原因になります。
お買い上げの販売店または専門業者にご依頼ください。

設置工事終了後、冷媒が洩れていないことを確認する。
●冷媒が室内に洩れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。

据付けをする前に（環境）

⚠注意

特殊環境には使用しない。
●油（機械油を含む）、蒸気、硫化ガスなどの多い場所、海浜地区など塩分の多い場所、積雪により室外ユニットが塞がれるところに使用しますと性能を著しく低下させたり、部品が破損したりする場合があります。

可燃性ガスの発生・流入・滞留・洩れの恐れがある場所へは据付けない。
●万一ガスがユニットの周囲にたまると、発火・爆発の原因になります。

精密機器・食品・動植物・美術品の保存等特殊用途には使用しない。
●保存物の品質低下等の原因になります。

濡れて困るものの上にユニットを据付けない。
●湿度が80%を超える場合やドレン出口が詰まっている場合は、室内ユニットからも露が落ちる場合もあります。また、暖房時には室外ユニットよりドレンが垂れますので、必要に応じ室外ユニットの集中排水工事をしてください。

病院、通信事業所などに据付けされる場合は、ノイズに対する備えを充分に行なう。
●インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤動作や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音など弊害の原因になります。

据付け（移設）工事をする前に

⚠注意

製品の運搬は充分注意して行なう。

●20kg以上の製品は原則として2人以上で行なってください。
PPバンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないでください。
素手でフィンなどに触れるとケガをする場合がありますので保護具をご使用ください。
●吊ボルトによる搬入を行なう場合は、確実に4点支持で実施してください。
3点支持などで運搬・吊下げしますと不安定となり、落下の原因になります。

ドレン配管は、据付工事説明書に従って確実に排水するよう施工し、結露が生じないよう保温すること。

●配管工事に不備があると、水漏れし、天井・床その他家財等を濡らす原因になります。

梱包材の処理は確実に行なう。

●梱包材には「クギ」等の金属あるいは、木片等を使用していますので放置状態にしますとさし傷などのケガをする恐れがあります。

据付台等が傷んだ状態で放置しない。

●傷んだ状態で放置するとユニットの落下につながり、ケガ等の原因になります。

冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行なう。

●不完全な断熱施工を行なうと配管等表面が結露して、露たれ等を発生し、天井・床その他、大切なものを濡らす原因になります。

エアコンを水洗いしない。

●感電の原因になります。

電気工事をする前に

⚠注意

設置場所（水気のある場所等）によっては漏電遮断器を取付ける。

●漏電遮断器が取付けられていないと感電の原因になります。

アース工事を行なう。

●アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は、感電の原因になります。

電源配線は、電流容量に合った規格品の電線を使用すること。

●漏電や発熱・火災等の原因になります。

正しい容量のヒューズを使用する。

●大きな容量のヒューズや針金・銅線を使用すると故障や火災等の原因になります。

電源配線は張力が掛からないように配線工事をする。

●断線したり、発熱・火災等の原因になります。

試運転をする前に

⚠注意

運転を開始する12時間以上前に電源を入れる。

●電源を入れてすぐ運転開始すると、故障の原因になります。
シーズン中は電源を切らないでください。

濡れた手でスイッチを操作しない。

●感電の原因になります。

パネルやガードを外した状態で運転をしない。

●機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。

運転中の冷媒配管を素手で触れない。

●運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。
素手で触れると凍傷や、やけどになる恐れがあります。

エアフィルターを外したまま運転をしない。

●内部にゴミが詰まり、故障の原因になります。

運転停止後、すぐに電源を切らない。

●必ず5分以上待ってください。
水漏れや故障の原因になります。

蓄熱槽の水量は、規定水量入っているかを確認する。

●水量が不足したまま運転スイッチを入れると停止します。そのまま繰り返し運転操作をすると、エアコンの故障の原因となりますので注意してください。

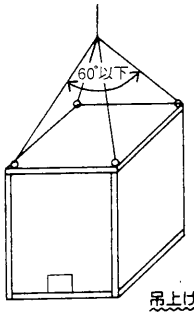
蓄熱槽の水量は定期的に確認する。

●使用開始時及び使用開始後、定期的に（半年に1回程度）水質検査を行ない、水質の変化を断続観測し、腐食傾向が表れた場合は水の入れ替えを行なうか、水質処理メーカーなどと協議し適切な対策を行なってください。

1. 蓄熱ユニットの設置

1) 蓄熱ユニットの搬入

- 吊ボルトによる搬入を行なう場合は、天井パネル4隅に、ユニット付属の吊ボルトを取付けて使用してください。
- 蓄熱槽に注水した状態での移動は危険ですので、必ず水抜きを行なってください。



吊上げは4本で

○蓄熱槽製品質量 133kg
○満 水 時 質 量 513kg
（運転時質量）

2) 蓄熱ユニットの設置

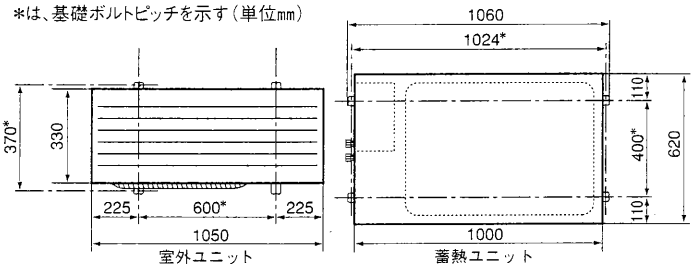
①ユニット設置

【図1】

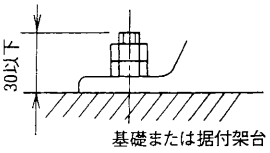
- 振動騒音が発生しないように基礎強度及び水平度を確認して設置してください。

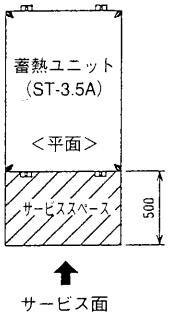
＜基礎強度寸法＞

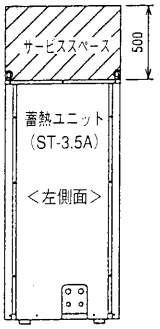
	室外ユニット	蓄熱ユニット
基礎ボルト	M10-J形	M10-J形
コンクリート厚さ	120mm	180mm
ボルトの埋込み長さ	70mm	125mm
許容引抜き荷重	320kg	560kg



- 基礎ボルト長さは据付足下面より30mm以内にしてください。
- M10の基礎ボルトでユニットの据付足を4ヶ所強固に固定してください。（基礎ボルト、座金、ナットは現地手配です。）
- 室外ユニットと蓄熱ユニットでは、基礎ボルトピッチ、基礎強度寸法が異なりますのでご注意ください。



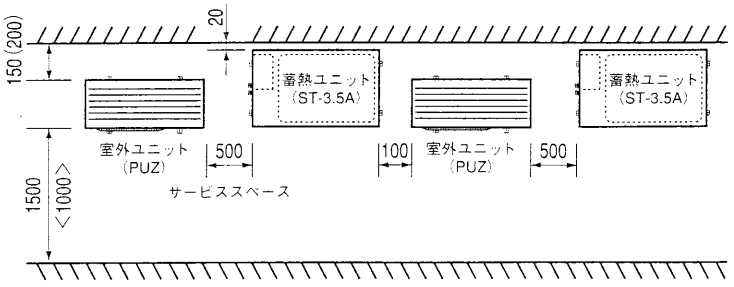




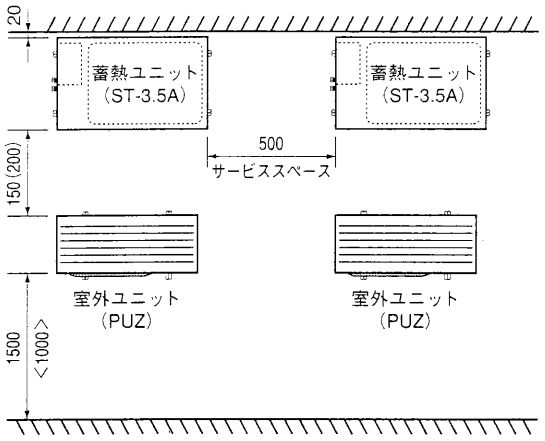
②室外ユニット＋蓄熱ユニットの周囲必要空間（単位mm）

（ ）内数字は、複数セット据付けの場合を示します。
＜ ＞内数字は、吹出しガイド取付時の場合を示します。

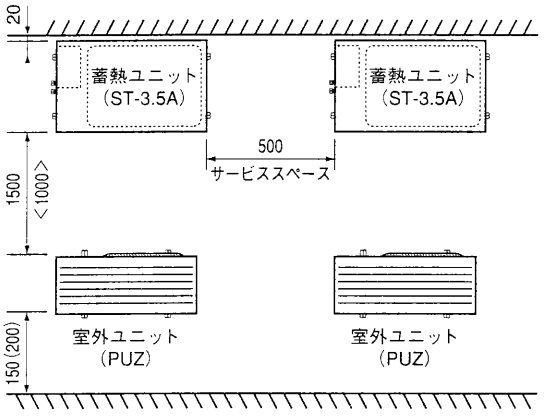
(1) 横配置の場合（1セット／複数セット）



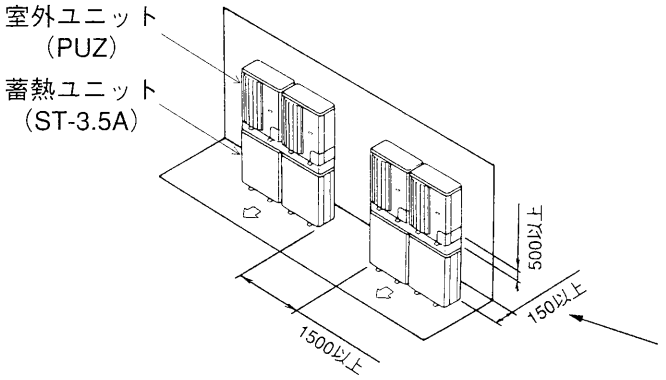
(2) 縦配置の場合＜その1＞（1セット／複数セット）



(3) 縦配置の場合＜その2＞（1セット／複数セット）



(4) 段積み設置の場合（例）



※段積みは2段までとしてください。
※横連続設置は2台までとし、それ以上の場合は左図に示すスペースを確保してください。
※蓄熱ユニットは必ず下段に設置してください。
※2段架台は現地手配としてください。
※蓄熱ユニットの上に直に室外ユニットを乗せないでください。

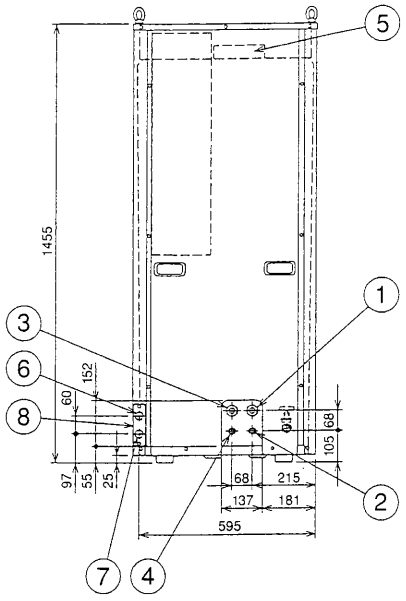
※横連続設置の場合300以上。

⚠警告	●据付けは、質量（運転時質量513kg）に充分耐えるところに確実に行なう。 ●強度が不足している場合は、ユニットの落下などにより、事故の原因になります。
⚠警告	●台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行なう。 ●据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。
⚠注意	●製品の運搬は充分注意して行なう。 ●包装用のポリフクロで子供が遊ばないように、破いてから廃棄してください。窒息事故などの原因になります。 ●吊ボルトによる搬入を行なう場合は、確実に4点支持で実施してください。3点支持などで運搬・吊り下げしますと不安定となり、落下の原因になります。
⚠注意	●濡れて困るものの上にユニットを据付けない。 ●外気条件によってユニット下部から結露水がたれることがあります。
⚠注意	●蓄熱ユニットを傾いた状態で設置するとオーバーフローすることがありますので必ず水平に設置してください。

2. 冷媒配管

室内／室外ユニットの据付工事説明書を併せてご覧ください。

1）冷媒配管接続



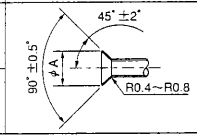
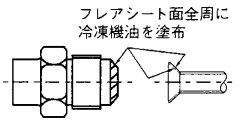
【図2】

（左側面）

番号	名　　称	備　　考
①	室外ユニットガス側配管接続口	φ19.05フレア
②	室外ユニット液側配管接続口	φ 9.52フレア
③	室内ユニットガス側配管接続口	φ19.05フレア
④	室内ユニット液側配管接続口	φ 9.52フレア
⑤	給水口	
⑥	伝送線穴	φ27 ノックアウト穴
⑦	電源線穴	φ27 ノックアウト穴
⑧	電線管固定板	

● 冷媒配管接続部は蓄熱ユニットの左側面にあります。（【図2】を参照してください）

①液管・ガス管をフレア加工し、フレアシート面に冷凍機油（現地手配）を薄く塗布してください。

銅管外径（mm）	フレア部加工寸法φA（mm）	フレア形状	冷凍機油塗布位置
φ 9.52	12.6～13.0		
φ19.05	22.9～23.3		

②配管の接続は、室外ユニットのストップバルブを全閉（工場出荷仕様）のままとし、室内・外ユニット,蓄熱ユニットと冷媒配管をすべて接続してください。

（注）蓄熱ユニットには、室内・室外両接続口がありますので、間違いのないよう接続してください。
接続を間違えると故障の原因になります。

● フレアナットの締付けは、必ずダブルスパナにて行なってください。

③配管接続後は、室外ユニットの液・ガス両方のストップバルブのサービスポートより窒素を封入し、現地配管と室内ユニット,蓄熱ユニットにガス洩れがないかを内圧の低下で確認してください。

④上記、液・ガス両方のサービスポートより真空引きを行なってください。

● 真空引きは、必ずガス・液両ストップバルブのサービスポートから同時に行なってください。片側だけからの場合、完全な真空引きが出来ません。
（ボールバルブはこの段階では全閉のままにしておいてください。）

● 冷媒の追加チャージは、必ず室外ユニット据付工事説明書の追加チャージ要領に従ってください。

⑤本ユニットはチャージレス方式ではありません。
延長配管分及び蓄熱ユニット分の冷媒は封入されていませんので、配管長を確認し下表に従って冷媒追加チャージを必ず計量して行なってください。

＜冷媒配管長さ（m）と追加冷媒量（kg）＞

機　種	許容配管長（m）	本体充填冷媒量（kg）	冷媒配管長さ［同時ツイン・トリプルの場合は総長］と追加冷媒量（kg）							
			5m以下	6～10m	11～15m	16～20m	21～25m	26～30m	31～35m	36～40m
PUZ-J140,160IGA	40	5.0	4.0（9.0）	4.3（9.3）	4.6（9.6）	4.9（9.9）	5.2（10.2）	5.5（10.5）	5.8（10.8）	6.1（11.1）
PUZ-J180IGA	40	5.5	4.0（9.5）	4.3（9.8）	4.6（10.1）	4.9（10.4）	5.2（10.7）	5.5（11.0）	5.8（11.3）	6.1（11.6）

※（ ）内は、全冷媒量を示します。再充填時は（ ）内の全冷媒量を充填してください。

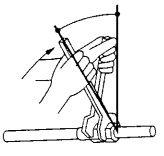
＜トルクレンチによる適正な締付力＞

銅管外径（mm）	締付力 N・m（kgf・cm）
φ 9.52	35～42（350～420）
φ19.05	100～140（1000～1400）

※トルクレンチが無い場合、次の方法を目安にしてください。
フレアナットをスパナで締付けていくと締付トルクが急に増すときがありますのでそこで一度とめてそれから更に右表の角度だけ回転させます。

締付角度の目安

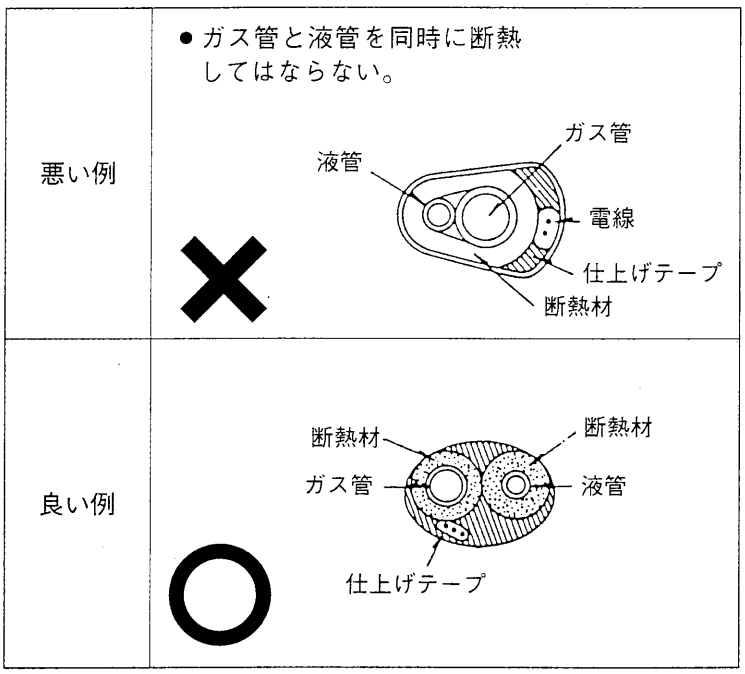
パイプ径	締付角度
φ 9.52	60°～90°
φ19.05	20°～35°



2）冷媒配管の断熱

冷媒配管は必ず液管とガス管とを別々に充分な断熱を行なってください。【図3】
断熱工事が不完全ですと露たれ等が発生する事がありますので、特に天井裏内の断熱工事は、細心の注意が必要です。

【図3】



（注）電線の断熱処理は行なわないでください。

● 上記以降の作業は室内・外ユニットの据付工事説明書を参照してください。

3）冷媒配管サイズ、許容配管長、高低差

ユニット形名	配管サイズ（mm）		許容配管長 室外一蓄熱ユニット間（m） 実長	許容高低差 室外一蓄熱ユニット間（m）
	ガス管	液　管		
ST-3.5A	φ19.05	φ9.52	10	5

● 詳細な冷媒配管制限値は室外ユニット据付工事説明書を参照してください。

⚠警告 ガスを抜かずにロウ付部を加熱すると、ユニット内部のガスが膨張し、銅管が破裂する恐れがあります。

⚠警告 据付けや移設の場合は、冷媒サイクル内に指定冷媒（R-22）以外のものを混入させないでください。
空気などが混入すると、冷媒サイクル内が異常高圧になり、破裂などの原因になります。

⚠警告 火気使用中にフロンガス（R-22）を洩らさないように注意してください。フロンガスがガスコンロなどの火に触れると分解して、有毒ガスを発生させガス中毒の原因になります。溶接作業は密閉された部屋で実施しないでください。また冷媒配管工事完了後、ガス漏れ検査を実施してください。

3. 電気配線

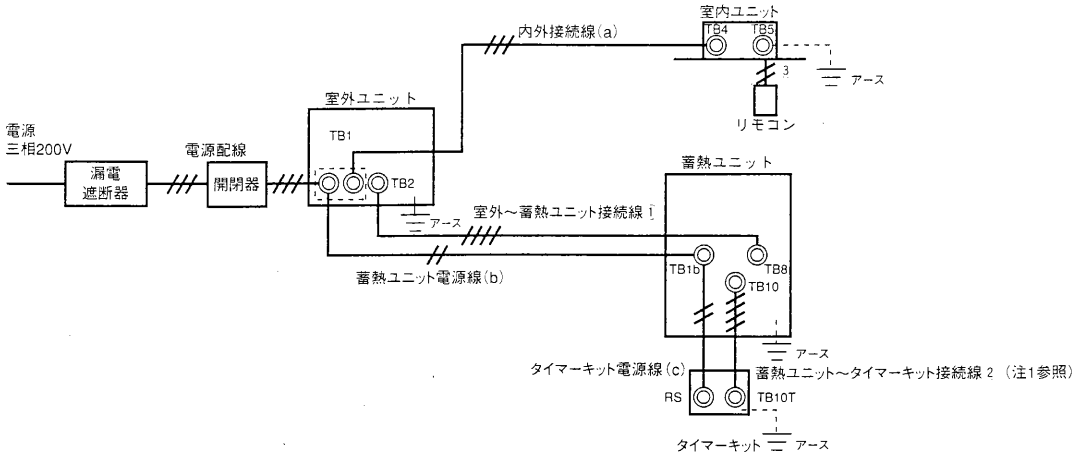
〔タイマーキットは別売（PAC-SF89TTまたはPAC-SF85TT）です〕

- 電気配線接続部はユニットの左側面にあります。
- 【図4】を参照し、室外ユニット・蓄熱ユニットの電源配線・制御配線をしてください。
- 室外～蓄熱ユニット、タイマーキット～蓄熱ユニット間の電気配線図は、この項目を参照してください。
- 室外～蓄熱ユニット接続線の配線（5V系）
  ①電線は4芯・0.75㎟以上の線（VVF、VCT、VCTF）を使用してください。
  ②配線長は10m以内にしてください。
  ③接続は、室外～蓄熱ユニット接続線端子盤へ行ないます。
  1・2・3・4端子に伝送線を接続します。
  極性が有りますので、蓄熱ユニットと室外ユニットの端子番号と一致するよう接続してください。
- 蓄熱ユニット電源線の配線（単相200V）
  ①蓄熱ユニットの電源配線は、室外ユニットの電源端子盤から接続してください。
  ②電線は2芯・φ1.6㎜以上の線を使用してください。
  ③接続は室外ユニット電源端子盤R、Sへ行ないます。
  蓄熱ユニットの電源端子盤の端子番号R、Sと一致するよう接続してください。
- タイマーキットは蓄熱ユニット内部へ組込みます。
  遠隔設置の場合は、次項を参照してください。
- タイマーキットの電源配線（単相200V）
  ①タイマーキットの電源配線は、蓄熱ユニット内設置の場合、蓄熱ユニットの電源端子盤から接続してください。
  ②電線は2線・φ1.6㎜以上の線を使用してください。
  蓄熱ユニット内への設置には、タイマーキット付属の線を使用してください。
  ③接続は、蓄熱ユニット電源端子盤R、Sへ行ないます。
  蓄熱ユニットの電源端子盤の端子番号R、Sと一致するように接続してください。
- タイマーキット～蓄熱ユニット接続線の配線（200V系）
  ①電線は4線・0.75㎟以上の線を使用してください。（PAC-SF85TTの場合は5線になります）
  蓄熱ユニット内への設置には、タイマーキット付属の線を使用してください。
  ②接続は、蓄熱ユニットTB10～タイマーキットTB10T端子盤へ行ないます。
  端子番号1、3、4、5と一致するように接続してください。
  （PAC-SF85TTの場合は端子番号1、2、3、4、5になります）
- 端子台TB8の配線は5V系（信号線）配線です。
  200V系の配線と抱き合わせると誤動作の原因となります。
  両者を絶対に抱き合わせることのないようにしてください。
- リモコン配線と電源配線を抱き合わせると誤動作の原因となります。
  両者を絶対に抱き合わせることのないようにしてください。

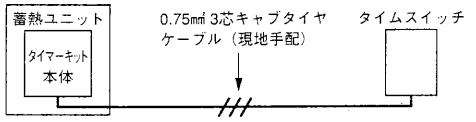
●電気配線

1）電源・制御配線

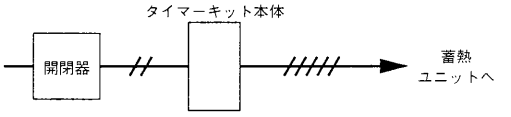
【図4】



■タイマーキット（別売PAC-SF89TT）を遠隔設置する場合、本体にあるタイムスイッチを本体から取外し、遠隔設置（管理室等）します。
詳しくはタイマーキットの据付工事説明書をご覧ください。



■タイマーキット（別売PAC-SF85TT）を遠隔設置する場合
タイマーキット本体を遠隔設置（管理室等）します。
この場合、別途ブレーカーが必要です。



注1：蓄熱ユニット～タイマーキット接続線②
タイマーキットにより線数が異なります。
PAC-SF89TT使用の場合：4線
PAC-SF85TT使用の場合：5線

電源配線

機　種	室外電源（三相200V）			内・外接続線 (a) 3線	蓄熱ユニット電源線 (b) (単相200V)	タイマーキット電源線 (C) (単相200V)
	電源配線	遮断器容量				
		ブレーカー (B種ヒューズ)容量	開閉器・ B種ヒューズ容量			
J140 , J160	φ2.6	30A	30A	φ1.6	φ1.6	φ1.6
J180	φ2.6	40A	40A	φ1.6	φ1.6	φ1.6

制御配線

蓄熱ユニット接続線①（室外～蓄熱ユニット接続線）			タイマーキット接続線②（タイマーキット～蓄熱ユニット接続線）			リモコン接続線③（リモコン～室内ユニット）		
線数	長さ	太さ	線数	長さ	太さ	線数	長さ	太さ
4線	10m 以内	0.75㎟以上	4線 (注1参照)	200m 以内	0.75㎟以上	2線	500m 以内	10m未満 付属コード 10m以上 0.3～1.25㎟

⚠警告 電気工事は、電気工事士の資格がある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び据付工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。電源回路に、容量不足や施工不備があると感電、火災等の原因になります。

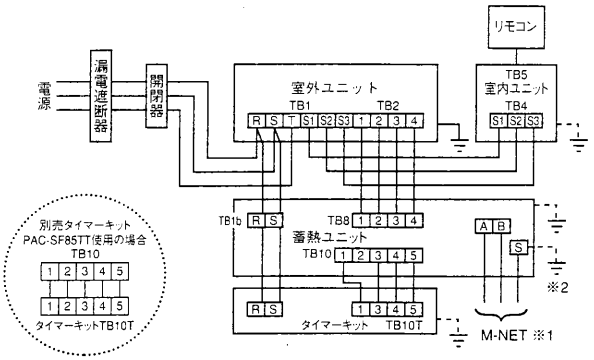
⚠注意 信号線（DC5V）と動力線（AC200V）の配線は抱き合わせると誤動作の原因となりますので、両者を絶対に抱き合わせないようにしてください。

●電気配線

2）電源・ユニット間配線の接続方法

（本図は別売タイマーキットPAC-SF89TT使用時の配線方法です。
PAC-SF85TT使用時は、図中の注意書を参照してください。）

1：1システム

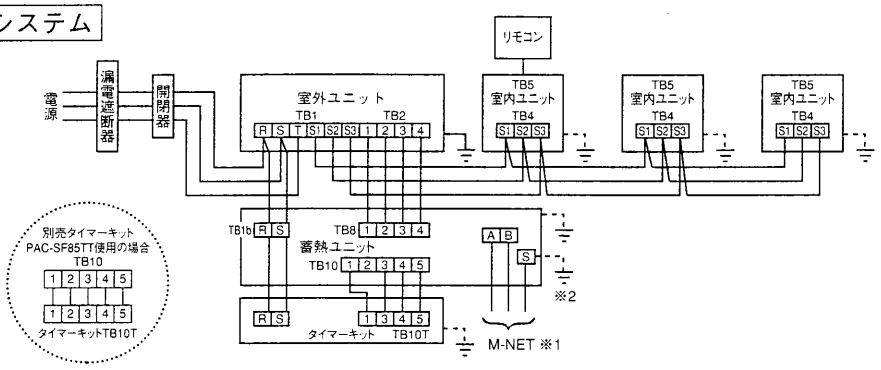


お願い
所轄の電力会社にご相談の上、指示に従ってください。

※1 別売M-NETアダプタ使用時の配線

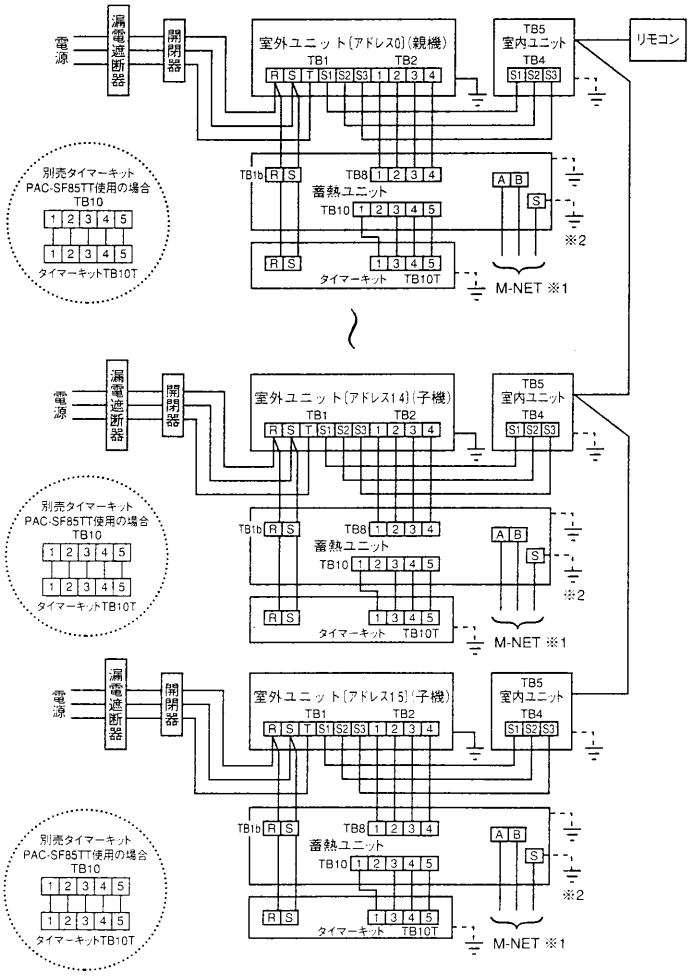
※2 別売M-NETアダプタ使用時の注意
M-NET伝送線のアースは必ず1点アースとし多点アースとならないよう注意してください。多点アースにすると通信異常の原因となります。

同時ツイン・トリプルシステム



グループ制御（室外ユニット最大16台接続）

※グループは、インバーターアイススリムだけのグループとしてください。他のA制御スリムとグループを組むと、深夜の蓄冷熱時間帯に手元操作禁止となるため、グループ内のユニットは運転できなくなります。



タイマーキット1台で複数台の蓄熱ユニットを運転する場合

（蓄熱ユニット最大50台）

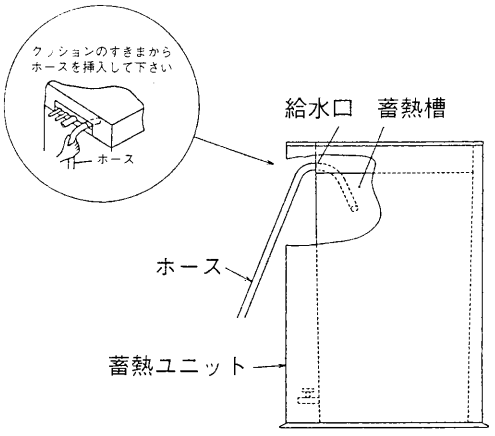
1台のタイマーキットで複数台の蓄熱ユニットを制御することができます。蓄熱ユニット制御箱の端子台TB10を渡り配線してください。詳しくはタイマーキットの据付工事説明書をご覧ください。

4. 蓄熱槽への注水

1）給水

①初期給水

【図5】



- サービスパネルを開け蓄熱槽上部の給水口から注水してください。（図5）
  給水はオーバーフローホースから水があふれ出したところで完了としてください。
- 水位は蓄熱槽内に氷ができることにより、蓄冷時で最大6cm程度の水位上昇がありますので満水まで給水した直後は、夜間の蓄冷運転によりドレンがオーバーフローホースから多目に出ることがありますが異常ではありません。
  （注）基本的に水配管は必要ありません。
  （注）自動給水装置は絶対に取付けないでください。

②定期給水

- 定期給水は、基本的には不要ですが、水位低下異常が表示された場合は給水を実施してください。
- 水位はセンサーにて検出しています。リモコンに水位低下異常「Lb」が表示された時は、夜間の蓄冷運転を完了し水位が最高位まで上昇した後も所定位置まで水位が無い事を意味しますので、この場合は給水を実施してください。
- 給水は、サービスパネルを開け蓄熱槽上部の給水口から注水してください。給水はオーバーフローホースから水があふれ出したところで完了としてください。
- 蓄熱槽に氷がある状態（特に蓄冷直後）で給水を実施した場合、その夜は一時的に少なめな蓄冷運転を行なうことがありますが、異常ではありません。翌日より正規の蓄冷運転を行ないます。

2）蓄熱槽の水質検査

①蓄熱槽の水替え

蓄熱槽の水替えは行なわないでください。移設等で止むなく水の入替えを行なう場合は、当社指定のサービス部品による水処理を必ず実施してください。

②水質検査

- 供給水は必ず上水、水道水を使用してください。
  クーリングタワー水や暖房用温水等は絶対に使用しないでください。
- 使用開始時及び使用開始後定期的（半年に1回程度の頻度）に水質検査を行ない、水質の変化を継続観測してください。水質によっては銅管の腐食がおきます。
  また、蓄冷、蓄熱性能が確保されない場合がありますので充分注意してください。
- 水質管理の目安となる基準については（社）日本冷凍空調工業会で「冷凍空調機用水質ガイドライン」が制定されていますので参考としてください。
- pHについては、伝熱管の孔食の発生を防止するために、当社独自の水処理を施しています。

蓄熱槽の水質基準（参考値）

	項目	単位	蓄熱槽水質基準	補給用水質基準	水質基準を超えた場合に生じる弊害事項	
					腐食	スケール
基準項目	pH（25℃）	—	6.5～8.0　※1	6.5～8.0　※1	○	○
	導電率（25℃）	μS／cm	800以下	200以下	○	○
	塩化物イオン	mg／L	200〃	50〃	○	
	硫酸イオン	〃	200〃	50〃	○	
	酸消費量（PH4.8）（Mアルカリ度）	〃	100〃	50〃		○
	全硬質	〃	200〃	50〃		○
参考項目	鉄	〃	1.0〃	0.3〃	○	○
	硫化物イオン	〃	検出しないこと	検出しないこと	○	
	アンモニウムイオン	〃	1.0以下	0.2以下	○	
	イオン状シリカ	〃	50.0〃	30.0〃		○

※1 三菱電機蓄熱槽の伝熱等孔食を発生させないための
pH水質管理のめやすは9.0～10.0としています。

出典：日本冷凍空調工業会
「氷蓄熱空調システム Q&A」

MEMO

三菱電機株式会社 静岡製作所 〒422-8528 静岡市小鹿3-18-1 ☎(054)285-1111(代表)